

研究所だより

第453号
2023年 2月21日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 春よ来い 早く来い 歩きはじめた みいちゃんが
赤い鼻緒の じょじょはいて おんもへ出たいと 待っている ”
『春よ来い』 童謡 1924年(大正14年)



「梅一輪いちりんほどの暖かさ」と言いますように、梅の花も咲きほころび、木々では小鳥がさえずり、少しずつ春を感じさせてくれるようになりました。19日(日)には南風がもたらした暖かい空気の影響で四国地方でも「春一番」が吹きました。気温も上がり4月並の陽気となりましたが、また冬の寒さが戻ってくるようです。厳しい寒暖差に注意が必要です。

春の訪れとともに引き続き基本的な感染防止対策「マスク(咳エチケット)、手洗い、うがい、3密回避、体調管理」に留意しながら過ごしましょう。

真正の構成的グループエンカウンターによる学級づくり① (指導と評価 2023.2) 〔教育相談機関から提案する学級づくり〕

柳井 智美先生(公認心理師・臨床発達心理士)
米田 薫教授(大阪成蹊大学)

1 教育相談と学級

筆者は相談員として学校現場に携わってきた。主な対象は個人の子どもや保護者であり、一見、学級づくりとは関係ないように思われるかもしれない。筆者も最初は目の前の対象者に精一杯で、学級とは切り離して考えていた。あくまで相談対象は目の前にいる個人で、学級のことは学校の先生に任せるしかない、手の及ばないところだというイメージを持っていた。しかし、相談を続ける中で、学校に居場所がない子ども、生活や友人関係に不応感を抱いている子どもなどは、心にエネルギーが溜まってきてもなかなか動き出せずにいると感じることがあった。そこから、相談員もチーム学校の一員として、すべての子どもにとって学級などが居場所となることを目指して教育相談を進めてきた。

2 個人と学級をどうつなぐか

個人対象の教育相談の中でどのように学級づくりを意識したらよいか。一つは、学校の先生方とのケース会議を開くことだ。ケース会議では、学級の雰囲気や対象となる子どもが学級の中でどのような立ち位置、役割を担っているかを確認するようにしている。筆者が家庭では夫婦で支え合い、職場では明るい雰囲気をつくる役割を担っているように、居場所とは単に所属している場所ではなく、“役に立ったり支えてもらったりしている”という実感がある場所だと思う。そのような居場所が思い当たらない場合、それぞれのリソース(強み)を探し、学級の一員としてどんな役割をつくれるかを意識して事例検討を進めている。



もう一つは、相談員と相談者の一対一の関係から他へ広げることである。実際に、相談員とのやりとりが練習のようになり、友人関係が深められずに悩んでいた子どもから「相談できる友人ができた」と報告を受けたこともある。このように、教育相談という狭い環境から生活環境へ汎化させていくことも個人と学級をつなぐ一部になっていく。

3 教育相談でのエンカウターの活用

エクササイズの中には相談員と相談者の二者関係でも実施可能なものも多くある。教育相談に来られる親子の場合、必ずしも相談に意欲たっぷりというケースばかりではない。そのような場合、相談開始初期に『二者択一』や『サイコロトーク』などを取り入れている。ある程度こちらが用意したものに沿って実施するため、半構造的なカウンセリングになり、“何を話していいかわからない”という不安感を抱きやすい子どもや親にとって取り組みやすいようだ。



ねらいは、話せる話題から自分自身のことを話し(自己理解、自己受容)、相談員のことも知ってもらい(他者理解、他者受容)、信頼関係を築くことである。

このとき注意したいのは、エクササイズはあくまでも目的のために取り組みやすくしたツールであり、目的の熟慮と感情の交流(シェアリング)が最も重要だということである。筆者は二者関係でもエクササイズを実施する場合は必ず、「お互いのことをもっと知って仲良くなるために」と説明し、相談員自身の気持ちなども語るようにしている。相談員が適度に自己開示することも、信頼関係を強めることにつながると実感している。

4 見立てることの大切さ

やみくもにエクササイズやソーシャルスキル教育を実施するのではなく、子どもや学級全体を見立てたうえで実施することが取り組みの効果を高めてくれる。日々の生活の中で感覚的に見立てができていた先生が多いと思われるが、ぜひ『楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U(河村茂雄著、図書文化)』や『学校適応感尺度ASSESS(栗原慎二・井上弥著、ほんの森出版)』などのアセスメントツールを活用してほしい。なぜならば、客観的な指標を分析することで、自分の見立てと合っていれば背中を押してくれるし、気づいていない部分が見えてくる可能性もあるからである。筆者も本誌で紹介された『キラキラプログラム(通称:キラプロ)』の開発に携わり、子どもや学級の実態をより示せるようなアセスメントツールを開発中である。(柳井智美)

5 先生と子どもの二人でもできるエンカウンター

彼女は集団対象の教育相談の重要性を認識し、エンカウンターも至極堪能な稀有な相談員である。彼女が言うように、エンカウンターは集団対象であるに超したことはないが、一対一でもできる。



研修に行かせてもらおうと「担任していないのでエンカウンターできない」という声を聞くことがあるが、いつも「それは違う」と申し上げている。エンカウターの目的は、自他発見とられあいのある人間関係づくりを通じた人間的成長である。個人対象でも少人数グループでもできる。保健室や別室でもできるし、授業でも、委員会活動やクラブ活動の場でもできる。要は、教員のやる気である。

6 エンカウンターとソーシャルスキル教育を併用

先日、小学4年生のクラスでキラプロをさせていただいた。相手の話を聞かないことでのトラブルが気になる事前に伺っていたので、ウォーミングアップにエンカウターの「リズム回し」をして、ソーシャルスキル教育の「聴く達人になろう」を実施した。私自身も楽しく、子どもたちにもおおむね好評で、参観してくださった先生方からもスキルのポイントのスライドがほしいとリクエストをいただいた。エッセンスは、以下の通りである。(2枚目)

よい聞き方のポイント

- ①体と顔を相手の方に向ける
- ②相手の目を見る
- ③うなずく（「うんうん」「そうなんだ」）
- ④聞くことに集中する（他のことをしない）
- ⑤相手の話をさえぎらない
- ⑥積極的に話を聞く、内容に合った質問をする

＝研究所所蔵図書を紹介＝

- ・構成的グループエンカウンター辞典
- ・構成的グループエンカウンター原理と進め方
- ・構成的グループエンカウンター
ミニエクササイズ56選小学校版
- ・中学校学級づくり 構成的グループ
エンカウンターエクササイズ50選 等

結果として、エンカウンターとソーシャルスキル教育を併用することの有用性を、改めて実感できた。ただ、一回限りでなくもっと継続的にエンカウンターをしたい、人間関係を広げて維持するスキルや問題解決のステップ、気持ちを落ち着けるスキルも一緒に勉強したいなあというのが実感であった。

7 気持ちを落ち着けるスキル

取り組み後、ハイテンションになったクラスには、気持ちを落ち着けるスキルを共有すべきだったと反省が残った。ポイントは、こうである。

1. 今の気持ちに気づく（ハイになっている！）
2. 深呼吸を2～3回する。
3. 心の中でゆっくり数を数える。（「ひと～つ、ふた～つ、み～つつ」）
4. 自分に「よし、落ち着いた」と言い聞かせる
5. 次の行動に移る（「しっかり、勉強しよう」等）

「1」は子ども自身で気づけないこともある。先生から「じゃ今から、落ち着けるステップを皆でやろう」と呼びかけ、一緒にやってほしい。そうしていくうちに子どもがこの有用性に気づき、イライラしなくなった時や落ち込みそうになった時などにも用いることができるようになり、ネガティブ感情に不要に長く浸らないで済む可能性を増やすことができるだろう。（米田 薫）

～第4回あすなろネットワーク～

1月26日（木）第4回あすなろネットワークを開催しました。まず初めに、1、2学期の欠席状況（①「3日以上10日未満」②「10日以上30日未満」③「30日以上」）について（2021年度との比較）報告しました。①②については増加傾向にあります。コロナ禍の影響も含め欠席理由は「体調不良、学習面、人間関係、家庭の事情」などとなっています。

今年度の研修については、コロナ禍の影響で2回目が中止となりましたが、研修を通して「どの会も大変勉強になった。」という声が多く聞かれました。来年度の研修内容については「なかも・集団づくり」「事例演習」等の要望が出されましたので、第1回の会で計画したいと思います。

＝2022年度の実績＝

- ◎第1回 5月31日（火）「あすなろネットワークの概要、年間計画」
- ◎第2回 8月22日（月）「不登校理解～児童生徒の心理的サポート～」 *コロナ禍により中止
講師：高知県スクールカウンセラー 小松 宏暢さん
- ◎第3回12月19日（月）「不登校を中心とする諸課題についての理解」
講師：高知県スクールカウンセラー 小松 宏暢さん
- ◎第4回 1月26日（木） 年間総括

今後も保・幼・小・中・高・教育委員会がさらにつながり、清水で育つ子どもたちを見守るネットワークづくりが強化できるようにしていきたいと思ひます。

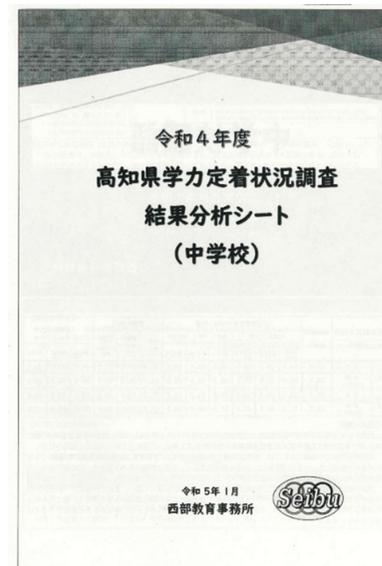
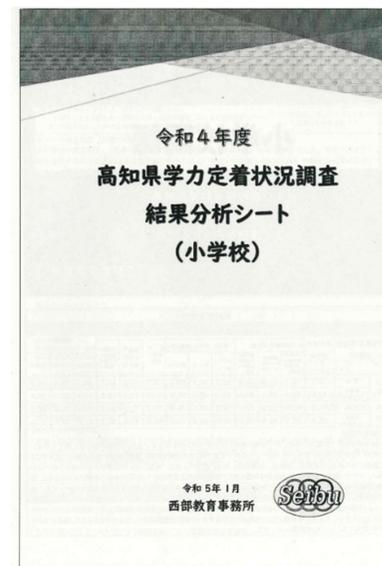
第2回学力向上検討委員会

2月9日（木）に第2回学力向上検討委員会を開催しました。

令和4年度高知県学力定着状況調査について市全体（小・中・高学年別）を「出題のねらい」「領域別・観点別・問題別」に分析し、今後の取組について情報交換を行いました。

各校においては、既に自校採点による学力定着状況調査についての分析を行っていると思ひます。その分析を基に西部教育事務所から配布されている①「令和4年度高知県学力定着状況調査結果分析シート（小学校）（中学校）」、②「令和4年度高知県学力定着状況調査を基にした授業改善シート」なども活用しながら再度分析を行い、新年度早々に実施される全国学力・学習状況調査に向けて計画的に取り組んでいただきたいと思います。

① 結果分析シート



② 授業改善シート

令和4年度 高知県学力定着状況調査を基にした 授業改善シート【 】 (R5.1.10 現在)
※問題別結果と併せて活用。

成果が見られる問題 【正答率・無解答率・全国差（目標差）等】	授業における要因
	家庭学習・帯学習等における要因
課題が見られる問題 【正答率・無解答率・全国差（目標差）等】	授業における要因
	家庭学習・帯学習等における要因
授業における改善策（実施時期／具体的方策／検証時期・方法等）	
①	
②	
③	
家庭学習・帯学習等における改善策（時期／具体的方策／検証時期・方法等）	
④	
⑤	

↓

授業改善の検証 【検証日： 月 日】	
取組	課題の改善状況（生徒の状況）
①	①
②	②

※「授業における改善策」の検証結果 → 次年度の授業改善プランへ

